

20・7・4球磨川水害被災後の地域づくりの一提案

球磨川アカデミア 松本晉一

2020年7月4日の集中豪雨で球

磨川が氾濫、球磨川・川辺川流域全体が被災、そして5ヶ月が過ぎました。

今後の復旧、地域づくりのあり方には種々の方針、方向性が示され始めましたが、なぜかこの地の再興に治水＝ダム建設（穴あき）への再論議が性急になされ始めて、まだ身体も心も癒えてはいない被災した人たちの意欲の足かせになっています。先ずダム治水方式の論議や方策を最優先するのではなく、それに費やする時間とエネルギー、その予算は、次世代社会のための地域づくり、が大事です。その二つとして、視点を変えた以下の構想を提案します。



従来のダム計画地（川辺川藤田地区）



被災した球泉洞駅と清正公岩付近

地域の皆様として県民、国民の皆様へ…

「球磨川流域国立自然博物館」構想のねらい

＝球磨川・川辺川流域水資源の有効活用＝

全国の国立博物館には国立歴史民俗博物館（れきはく）、国立科学

博物館（かはく）、国立民族学博物館（みんぱく）他、中央周辺には

歴史や美術、科学、建築等の博物館が多数存在しますが、なぜか地方には国立の博物館は存在しません。そこで次には国立の自然博物館（じぜんはく）を、この南九州の球磨・人吉の地に創設したいと願う発想です。でもこれは箱もの造ろうと言つものではありません。



日本一の清流・球磨川上流域



球磨川中流・堆積層

皆様にお伝えしたいのは、「母なる球磨川に学ぶ」とする「国立球磨川流域自然博物館」事業（仮称）及び「国立くまりば・センター」施設（仮称）の提案です。まず地元の皆様に提案をご覧頂き、この国立球磨川流域博物館の設立イメージをより内容あるものにしたいと存じます。勿論、この構想には自然災害へ備えとしての治水や治山も含めて、球磨川流域をより元の自

然に戻す、水の文化を大切にする、この流域の農林水産資源の有効活用が構想の主眼です。川と人間が

どうすれば共存出来るかを探りたいと思います。

大切なのは「日本」の清流球磨川

の存在を次の世代へと

つなぐ活用方法です。



日本一の清流・川辺川中流域

球磨川・川辺川の両水源から八代の河口まで、流域全体のその価値を次の未来へとつなぎ、日本を代表する水の恵みの象徴として、この沿線流域こそが、それに相応しい自然博物館そのものと考える構想です。皆様方と共に、箱ものではない既存の国立博物館とは異なる、目的を持つた形態と機能のあり方で、

提案者：球磨川アカデミア 松本晋

2020年10月30日

球磨川全体を国立の自然博物館として表現することが出来ればと考えます。

その中核発信源となるのが、「国立くまりばセンター」施設のイメージです。球磨川川辺川の各源流、上流・中流・下流、河口域の各地点に「くまりば・センター」の設置を想定しています（地図参照）。地域の皆様、県民国民の皆様に本提案の内容に修正案や改良を頂き、そして皆様が賛同者の一人として、この夢を膨らませ、この球磨川流域自然博物館事業の実現へとつながれば幸いです。



「国立球磨川流域自然博物館」事業構想

名称：「国立球磨川流域自然博物館」（仮称）

及び「国立くまりばセンター」（仮称）

National Field-Museum KUMAGAWA (NFK)

ナショナル フィールド ミュージアム クマガワ

National Kuma-river Center (NKC) ナショナル クマリバ センター

主旨

この博物館は、自然そのまま、生きている球磨川・川辺川水系全体を利用したフィールド・ミュージアムです。県民国民の皆様がこの流域で、水泳や魚釣り、自然や動物生態観察、カヌーやキャンプ、狩猟、

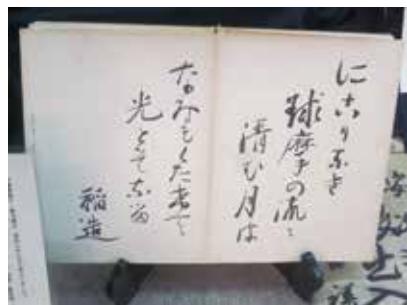
造林などの行動技術体験、野外活動は勿論、九州脊梁水系と球磨川河口を含めた風土と景観、生活の歴史、文化、教育、産業など、清流球磨川の自然と文化の全般に関する資料や情報を一元的に集約。それらを展開・発信し、球磨川全体を自主参加方式、地域交流と学際型のネイチャーミュージアムとするものです。

そして“母なる球磨川”的各地点に、山遊び、川遊び、自然への学びの基地となる「国立くまりばセンター」を造る構想です。この球磨川流域自然博物館が郷土愛、自然愛を育み、引いては治山治水を含めた日本一の清流・球磨川の自然環境保全、地球環境の災害リスク管理をも含め、この球磨川に学



＜国立球磨川流域自然博物館・国立くまりばセンターの各配置図＞

- ①球磨川水源センター ②川辺川水源センター ③球磨川上流センター
- ④川辺川上流センター ⑤球磨川本流センター ⑥球磨川中流センター
- ⑦球磨川下流センター ⑧球磨川河口センター
- (既存ダム及び撤去ダム、計画案ダムの配置図)
- Ⓐ市房ダム=Ⓑ瀬戸石ダム=Ⓒ撤去された荒瀬ダム=Ⓓ計画案の川辺川ダム



新渡戸稻造詠 (鍋屋本館蔵)

（参考資料）

- ・建設省他「川辺川の四季」1983年1月
- ・九州地方建設局八代工事事務所「球磨川」昭和63年1月
- ・麦島勝「球磨川と50年」麦島勝写真製作委員会2000年5月
- ・熊日新聞「川辺川が12年連続・最良」2018年7月11日
- ・松本晉一「球磨川の駅・ものがたり」2019年7月
- ・提案者への連絡先..熊本県人吉市九日町115(〒868-0004)松本晉一
Email : smatsu@fsinet.or.jp



川漁



国立くまりばセンター・イメージ



山獵

ふこと、そのことが“瑞穂の国・日本”への国土愛と全人的人間教育にもつながります。
被災した今こそ、失つてはならない自然の力による緑の文化、水の文化、この南九州の日本自然遺産の存在をしっかりと発信・活用すべきと考えます。

対象流域..熊本県南部球磨川・川辺川の各本流と支流、その水源から球磨川河口までと、その拡がりである八代海、そして県境の隣接市町村を含むものとする。

流域面積..約2200km²、流域延長約190km

水源地..球磨川水源は球磨郡水上村の石楠越及び水上越。川辺川水源は八

くまりばセンター基地..球磨川・川辺川各水源、上流、中流、下流、河口

構想提案日..令和2年（2020年）10月30日

くまりばセンター..球磨川・川辺川各水源、上流、中流、下流、河口

代市泉村の国見岳